

5. 大学入学者選抜の改善

大学入学者選抜の現状

【大学入試の基本的な考え方】

大学がどのような選抜でどのような入学者を受け入れるかについては、各大学・学部等の入学者受入方針に基づき実施するものであり、各大学においては、入学者受入方針に基づき、その入学志願者の大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定するため、様々な取組みを実施。

文部科学省としても大学入試を実施する上でのガイドラインとして大学入学者選抜実施要項を毎年度、大学に通知し、入学者受入方針の明確化や選抜方法の多様化、評価尺度の多元化を推進。

○平成25年度大学入学者選抜実施要項(関連部分抜粋)

第1 基本方針

各大学（短期大学を含む。以下同じ。）は、入学者の選抜を行うに当たり、入学志願者の大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）の教育を乱すことのないよう配慮する。

能力・適性等の判定に当たっては、高等学校段階で育成される学力の重要な要素（基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学習意欲）を適切に把握するよう十分留意する。なお、高等学校の学科ごとの特性にも配慮する。

また、各大学は、当該大学・学部等の教育理念、教育内容等に応じた入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明確にするとともに、これに基づき、入学後の教育との関連を十分に踏まえた上で、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努める。

主な入試方法は以下のとおり。

(1) 一般入試

調査書の内容、学力検査、面接・小論文等大学が適当と認める資料や方法により判定する方法。

(2) 推薦入試

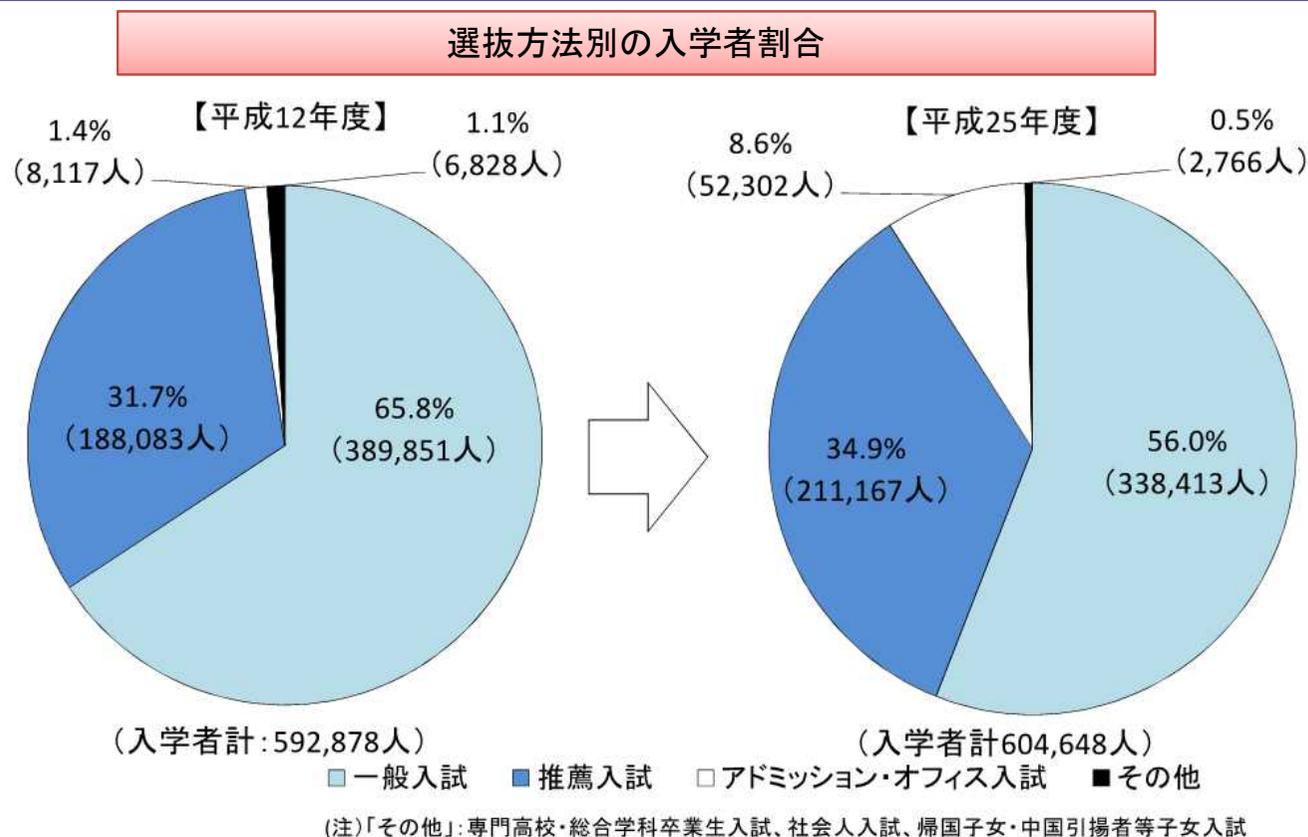
出身学校長の推薦に基づいて、原則として学力検査等を免除し、調査書を主な資料として、面接・小論文等を活用して判定する方法。

(3) アドミッション・オフィス入試(AO入試)

学力試験に偏ることなく、詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせ、受験生の能力・適性や学習に対する意欲・目的等を総合的に判定する方法。

平成25年度入学者選抜実施状況の概要（平成12年との比較）

推薦・AO入試が事実上の学力不問となるなど、本来の趣旨と異なった運用になっている例がみられる。



グローバルに活躍する人材やイノベーション人材を育成する観点から、学力検査偏重の選抜ではなく、より多様な面を評価する必要がある。

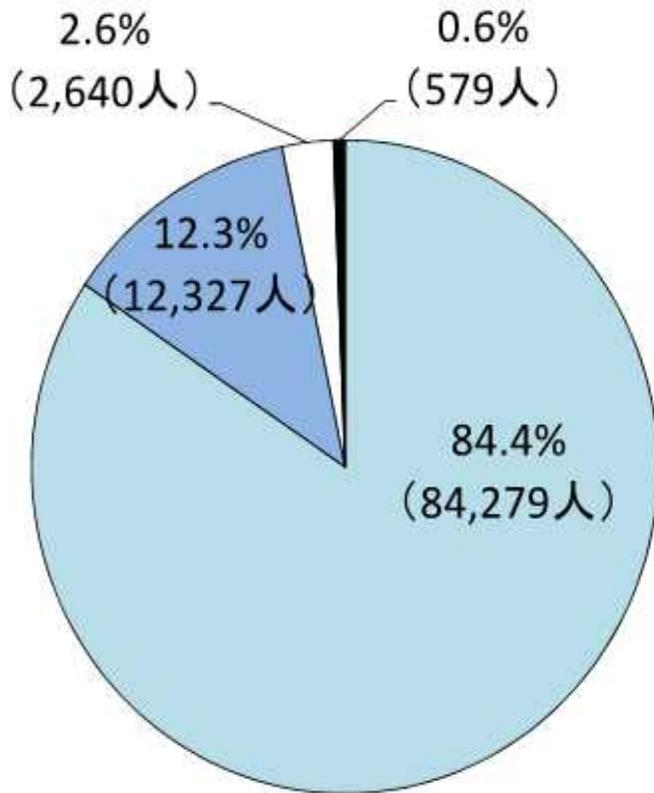
大学入試センター試験については、高校教育課程の弾力化への対応により、出題教科・科目が増加するなど、限界と言われるほど複雑化している。

平成25年度入学者選抜実施状況の概要（国公立別）

国公立大学では一般選抜が中心

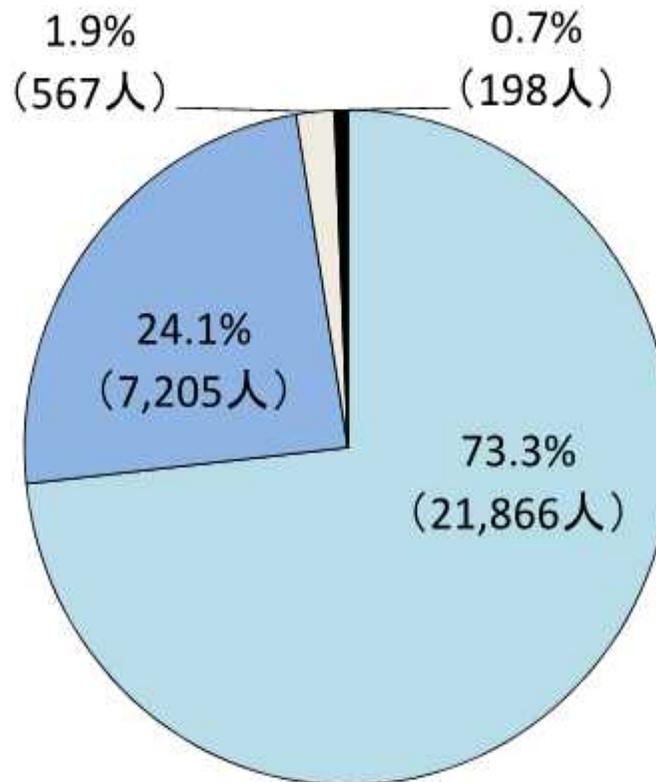
私立では約半数がAO入試、推薦入試を経由して入学している

【国立大学】



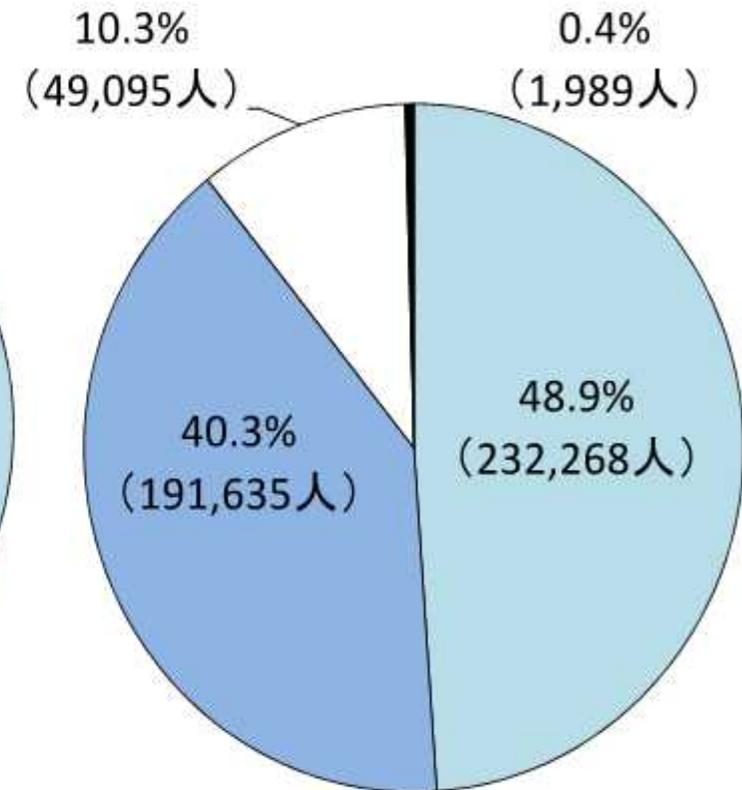
(入学者計: 99,825人)

【公立大学】



(入学者計: 29,836人)

【私立大学】



(入学者計: 474,987人)

■ 一般入試 ■ 推薦入試 □ アドミッション・オフィス入試 ■ その他

(注)「その他」: 専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試

一般入試において面接、小論文等を課す国公立大学(平成26年度入試)

区 分	平 成 2 6 年 度					
	国 立		公 立		計	
入学者選抜の実施 大学・学部数 《募集人員》	大学 82 《 96,270 》	学部 383	大学 81 《 28,407 》	学部 174	大学 163 《 124,677 》	学部 557
1. 一般入試						
個別学力検査等						
小論文	65 (79.3)	181 (47.3)	57 (70.4)	87 (50.0)	122 (74.8)	268 (48.1)
総合問題	23 (28.0)	45 (11.7)	16 (19.8)	20 (11.5)	39 (23.9)	65 (11.7)
面接	65 (79.3)	166 (43.3)	54 (66.7)	79 (45.4)	119 (73.0)	245 (44.0)
実技検査	54 (65.9)	58 (15.1)	16 (19.8)	20 (11.5)	70 (42.9)	78 (14.0)
リスニング	11 (13.4)	20 (5.2)	2 (2.5)	3 (1.7)	13 (8.0)	23 (4.1)

1. 平成25年度7月末現在で集計したもの。(設置認可申請中等の予定のものを含む。)
2. 学部内の募集単位により選抜方法が異なる場合には、それぞれの箇所に計上。
3. () 書きは、入学者選抜実施大学・学部数に対する割合を示す。
4. 募集人員に外国人留学生を対象とする選抜分は含まない。

アドミッション・ポリシーの作成状況(平成24年度入試)

○入学者受入方針の策定の状況

区分		入学者受入方針を定めている大学数		
		学部ごとの入学者受入方針を定めている大学・学部数		
		大学数	学部数	
大学	国立	82 (100.0)	81 (98.8)	375 (98.4)
	公立	80 (100.0)	80 (100.0)	173 (100.0)
	私立	579 (100.0)	577 (99.7)	1,618 (99.0)
	計	741 (100.0)	738 (99.6)	2,166 (99.0)

○入学者受入方針の明確化の状況

区分		求める学生像だけでなく、高等学校段階で習得しておくべき内容・水準を具体的に定めている大学数
大学	国立	58 (70.7)
	公立	27 (33.8)
	私立	231 (39.9)
	計	316 (42.6)

文部科学省大学入試室調べ

○学校教育法施行規則第七十二条の二(平成22年6月改正、平成23年4月施行)

大学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

- 一 大学の教育研究上の目的に関すること
 - 二 教育研究上の基本組織に関すること
 - 三 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
 - 四 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
 - 五 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
 - 六 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たつての基準に関すること
 - 七 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
 - 八 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
 - 九 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- 2 大学は、前項各号に掲げる事項のほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するよう努めるものとする。
- 3 第一項の規定による情報の公表は、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によつて行うものとする。

多面的・総合的な選抜を行っている例(平成26年度入試)

1. 東北大学工学部:AO入試Ⅱ期(募集人員:104名)

- ・出願要件として高等学校の教科の評定平均値(理数系教科4.5且つ全体4.0以上)を要求
- ・出願書類(210点)、小論文試験(240点)、面接試験(150点)を総合的、多面的に評価(計600点満点)
- ・志願者数が募集人員を大幅に上回る場合は、出願書類による第1次選抜を実施
- ・出願書類として活動報告書(主要な活動の経歴、成果等を志願者が作成、記載事項確認者が確認)、志願者評価書(出身(在学)学校長が作成)、志望理由書の提出を要求

2. 慶應義塾大学総合政策学部・環境情報学部:自由応募入試 A方式(募集人員:各学部100名(他の方式と合算))

- ・出願書類をもとに第1次選抜を実施
- ・出願書類として志願者評価(志願者を客観的に知る立場にある者2名が作成)、活動報告(中学卒業後から出願に至るまでの学業・学業外の活動内容について志願者が作成。出願要件の判断に使用。)、志望理由・入学後の学習計画・自己アピール(志望理由とともに文章と自由記述を用いて自由に表現)、任意資料(所定の資料だけでは表現しきれないもので、選考にあたり有用と判断した資料)を要求
- ・第2次選抜で面接試験(30分、うち7分をプレゼンテーションとして使用可)を実施し、第1次選抜の評価と合わせて総合判定

3. 九州大学21世紀プログラム:AO入試(募集人員:26名)

- ・出願書類をもとに第1次選抜を実施
- ・出願書類として活動歴報告書(中学時代から出願時までに取り組んだ学校での勉学以外の各種活動等について記述したものを志願者が作成)、志望理由書を要求
- ・第2次選抜で講義(3講義、各約50分)に関するレポート(各約70分)と討論(150分)、小論文(約270分)及び面接(約15分)を課し、提出書類の内容と合わせて総合判定

米国大学における入学者選抜の例

1. ペンシルバニア州立大学(ユニバーシティパーク校)

- ・ 志願者44,502名、合格者23,855名(53.6%)、入学者7,306名(2012年)
- ・ 4年での卒業率63%、6年での卒業率87%

[出願要件等]

- ・ 高校において英語(4単位)、数学(3)、科学(3)、社会科学(3)、外国語(2)を含む合計15単位以上の修得が必要。
- ・ アドバンスト・プレイズメント(AP)や国際バカロレア(IB)等を含む大学進学予備プログラムの修得を推奨。

[出願書類等]

- ・ SAT又はACTの成績、高校の成績証明書、大学独自の願書(エッセイを含む)

[合否判定方式]

- ・ 高校の成績を2/3、SAT又はACTの成績を1/3の比重で得点化し、一定の基準以上の者を合格判定。
- ・ 高校の成績の評価においてAPやIB等の成績があれば加味。
- ・ 高校の成績の学校間格差の調整は行わず。
- ・ SAT等の成績よりも高校の成績を重視するのは、
 - ①1日の試験の結果より長い時間をかけて得たものを重視
 - ②裕福な家庭の子弟はSAT等の準備コースに入り対策を講じており、SAT等の成績は家庭の経済状況の影響を受けることなどが理由。
- ・ 優等学位プログラムや医学特別進学課程を希望する入学志願者の場合は、エッセイや教師の評価書、奉仕活動の経験等も加味して合否判定。

2. ブラウン大学(私立)

- ・ 志願者30,944名、合格者2,757名(8.9%)、入学者1,507名(2012年)
- ・ 4年での卒業率83.2%、6年での卒業率95.0%

[出願要件等]

- ・ 高校において、英語(4単位)、数学(4)、科学(3(実験科学2を含む))、歴史(2)、外国語(4)、音楽・美術(1)、その他(1)を含む19単位以上の修得を推奨。

[出願書類等]

- ・ SAT又はACTの成績(SAT II 2科目を含む)、高校3年生前期の成績、高校の内申書、教師の評価書(2名分)、大学共通願書、大学独自の願書(エッセイを含む)

[合否判定方式]

- ・ SAT又はACTの成績、高校の成績、エッセイ、教師の評価等を総合的に判断(それぞれの得点化はしない)。
- ・ 個々の選抜資料についての明確な重み付けは設定されておらず、3人の職員それぞれが合否を総合的に判断。最終的には、この評価を参照しつつ20名で構成される委員会における投票によって合否を決定。
- ・ 高校における履修科目のレベルの高さ、アドバンスト・プレイズメント(AP)や国際バカロレア(IB)等を含む大学進学予備プログラムの成績を最重要視。
- ・ SAT等は家庭の経済状況の影響を受けることも審査の際に考慮。
- ・ 学生集団の多様性確保には配慮(ただし特別の基準、枠等は設けず)。

受験生から大学に提供する受験生情報の例(米国の例)

○SATにおける受験生情報の提供

米国における大学入学者選抜の際の共通テストであるSATにおいては、本人が希望する大学に対して、テスト・スコアに加えて以下の受験生情報が提供されている。この情報は各大学と受験生とのマッチングを図る際の有効な情報として一般に活用されている。

(主な記入内容)

高校での履修科目、科目別成績、GPA、クラス内順位、高校・地域での活動歴(役職への就任、受賞経験等を含む)、スポーツ歴、希望する進学先の大学のタイプ・希望する専攻、アドバンスト・プレースメント・テスト受験意思、補習教育の希望、入学後のクラブ活動希望、奨学金希望、入学後のアルバイトの希望、1年次の希望する居住形態、人種、英語以外の言語能力、米国市民権の有無、宗教、障害・疾病の有無、数学・科学・ライティングの能力自己評価、両親学歴、両親の年収

○コモン・アプリケーションにおける受験生情報

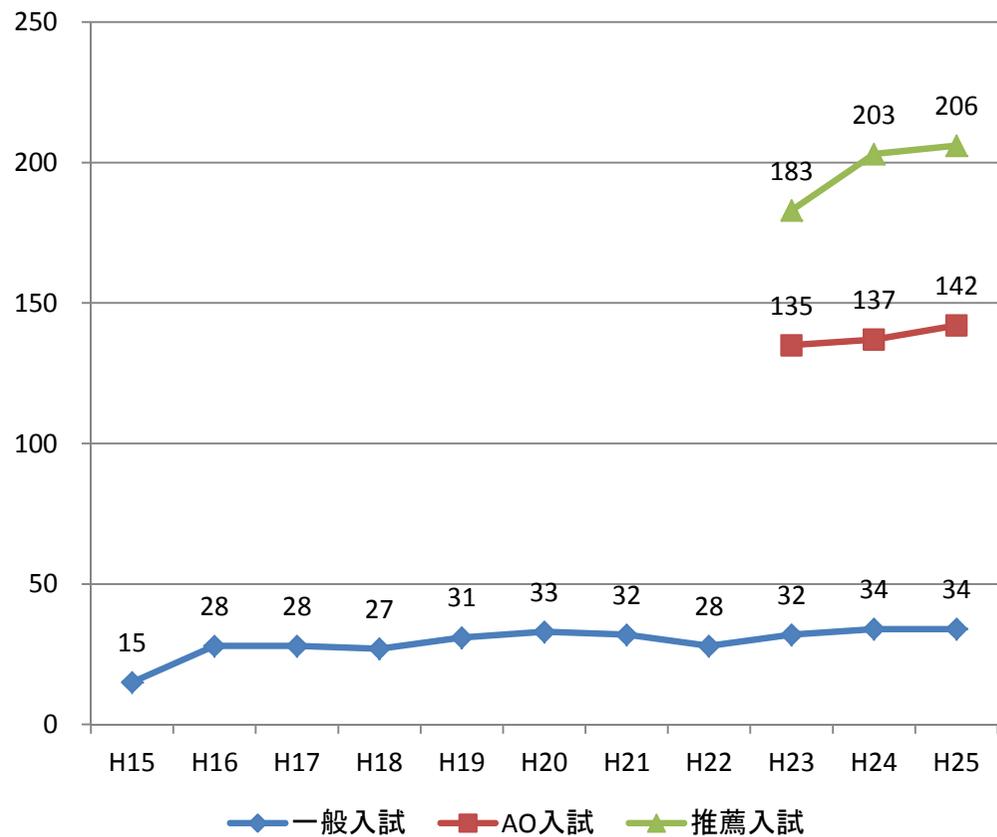
全米の500大学以上が採用しているオンラインによる出願のためのシステム。共通のフォーマットに必要事項を記入し、志願する大学に提出する。

(主な記入内容)

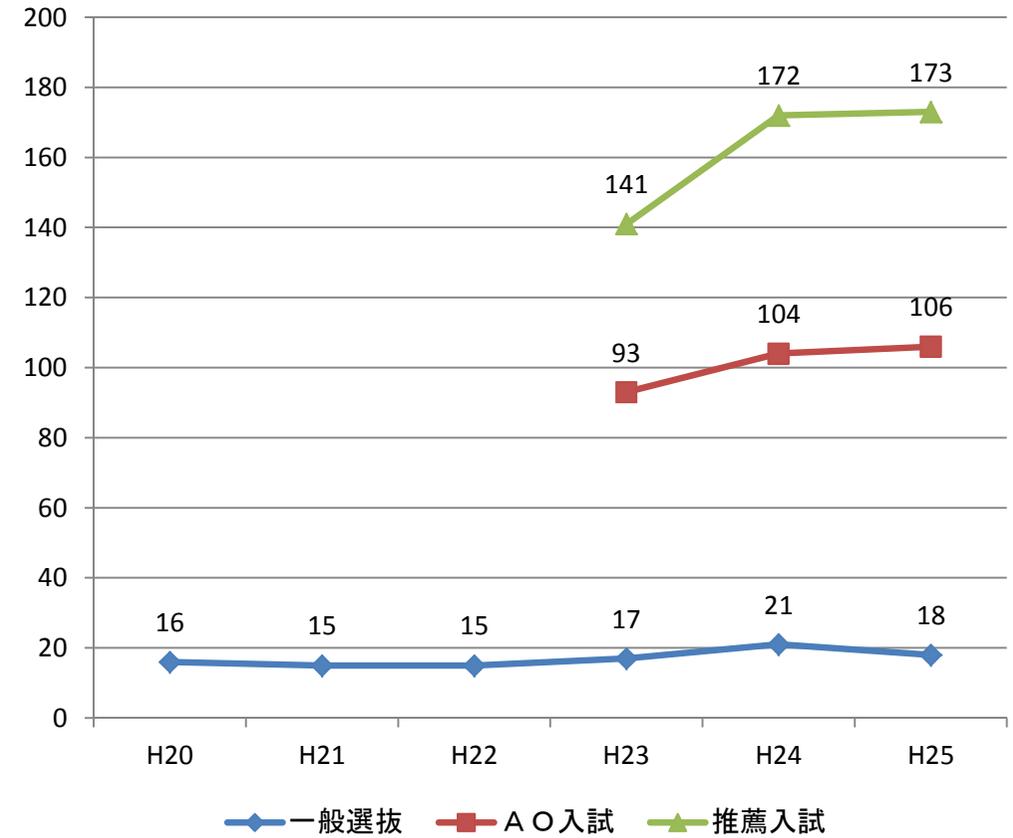
入学時期(秋、春)、関心のある学問分野、奨学金希望、入寮希望、取得希望学位、米国市民権の有無、出生地、米国在住期間、言語能力、人種、両親の学歴・職業、高校の履修科目・成績、GPA、ACT/SATの成績、TOEFL/IELTSの成績、AP/IB/SAT subjectsの成績、課外活動歴(役職への就任、受賞経験等を含む)、エッセイ

大学入学者選抜における資格・検定試験等の活用状況(推移)

<語学関連>
(大学数)



<語学以外>
(大学数)



文部科学省大学入試室調べ

1. 語学関係(英語)

実用英語技能検定、TOEFL、TOEIC、IELTS、国際連合公用語英語検定、ケンブリッジ大学一般英語検定、GTEC、日商ビジネス英語検定、全商英語検定、工業英語能力検定、全工・リスニング英語検定 等

2. 語学関係(英語以外)

実用フランス語技能検定試験、フランス国民教育省認定フランス語資格試験(DELF、DALF)、ドイツ語技能検定試験、スペイン語技能検定、スペイン語検定試験(DELE)、ロシア語能力検定試験、実用中国語技能検定試験、中国語コミュニケーション能力検定、中国語検定試験、漢語水平考試(HSK)、ハングル能力検定試験、韓国語能力試験 等

3. その他

全商各種検定(情報処理、商業経済等)、実用数学技能検定、経産省ITパスポート試験、秘書技能検定、全工各種検定(情報技術、パソコン利用技術等、ジュニアマイスター顕彰)、日商各種検定(販売士、PC、珠算等)、全経簿記能力検定試験、語彙・読解力検定、マイクロソフトオフィススペシャリスト、パソコン検定、情報検定、珠算能力検定、全珠連珠算検定、歴史能力検定、世界遺産検定、ヤマハ音楽能力検定、食物調理技術検定、調理師免許 等

ジュニアマイスター顕彰制度

＜主催＞全国工業高等学校長協会

＜目的＞資格の取得や競技会等での成果を表彰することにより、生徒の意欲と技術・技能の向上を目的とする。

＜顕彰の方法＞主に工業教育に関わる資格、競技会、コンクール等200項目程度を選定し、その難易度や重要度を点数化し、表(区分表)を作成。

30点以上にはジュニアマイスターシルバー

45点以上にはジュニアマイスターゴールド

の称号を外部委員からなる認定委員会が学校長から申請のあった生徒に対し付与する。

＜主な資格や競技会＞

ランク	ポイント	主な資格や競技会	
S	30	電気主任技術者3種	高校生ものづくりコンテスト全国大会1位
A	20	各職種技能士2級	若年者ものづくり競技大会1位
B	12	品質管理検定2級	
C	7	電気工事士2種	高校生ものづくり県大会優勝
D	4	危険物取扱者乙種4類	高校生ものづくり大会県大会入賞
E	2	アマチュア無線技士3級	各種技能系競技会県大会入賞
F	1	ガス溶接等技能講習	

校長会等が実施する検定試験

実施団体等	No.	検定名	段級位等	検定日
日本農業技術検定協会	1	日本農業技術検定	1, 2, 3級	7月, 12月
(公社)全国工業高等学校長協会	1	標準テスト	—	2月
	2	計算技術検定	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	3	情報技術検定	1, 2, 3級	1月, 6月
	4	基礎製図検定	—	9月
	5	パソコン利用技術検定	1, 2, 3級	7月, 12月
	6	機械製図検定	—	6月
	7	リスニング英語検定	1, 2, 3級	10月
	8	初級CAD検定	—	7月
	9	グラフィックデザイン検定	1, 2, 3級	1月
(公財)全国商業高等学校協会	1	ビジネス文書実務検定試験	1, 2, 3, 4級(速記部門について、5段～初段の段位認定あり)	6月, 11月, 2月
	2	情報処理検定試験	1, 2, 3級	1月, 9月
	3	珠算・電卓実務検定試験	1, 2, 3, 4, 5, 6級	6月, 11月
	4	簿記実務検定試験	1, 2, 3級	1月, 6月
	5	英語検定試験	1, 2, 3, 4級	9月, 12月
	6	商業経済検定試験	1, 2, 3級	2月
	7	会計実務検定	財務諸表論、財務諸表分析	10月
	8	ビジネスコミュニケーション検定試験	—	7月
全国水産高等学校長協会	1	高等学校水産海洋技術検定	—	1～2月
	2	高等学校漁業技術検定	—	7～9月, 12～2月
	3	高等学校通信技術検定	—	1月
	4	高等学校海洋情報技術検定	1, 2級	2月, 7月
	5	高等学校栽培漁業技術検定	1, 2級	6月, 12月
	6	高等学校潜水技術検定	上, 1, 2, 3級	7～8月, 11～12月
	7	高等学校食品技能検定	1, 2, 3類	1月, 7月
	8	HACCP基本技能検定	—	1月, 7月
	9	高等学校エンジン技術検定	1, 2級	7～8月, 12～2月
(公財)全国高等学校家庭科教育振興会	1	全国高等学校家庭科技術検定(被服)	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	2	全国高等学校家庭科技術検定(食物)	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	3	全国高等学校家庭科保育技術検定	1, 2, 3, 4級	6月, 10月

※看護、福祉、情報については、校長会等が実施する検定試験はないが、それぞれ関係の国家資格や国家試験等を目指している。

校長会等が実施する生徒の発表大会等

実施団体等	No.	大会等名	種類等	開催月
日本学校農業クラブ連盟	1	日本学校農業クラブ全国大会	プロジェクト発表会、意見発表会、平板測量競技会、農業鑑定競技会	10月
(公社)全国工業高等学校長協会	1	全国高等学校ロボット競技大会		11月
	2	高校生ものづくりコンテスト全国大会	旋盤作業、自動車整備、電気工事、電子回路組立、化学分析、木材加工、測量	11月
	3	高校生ロボット相撲全国大会		11月
	4	高校生技術・アイデアコンテスト		1月
	5	高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会		2月
	6	マイコンカーラリー		1月
	7	全国製図コンクール		12月
全国商業高等学校長協会	1	全国高等学校簿記コンクール		7月
	2	全国高等学校情報処理競技大会		7月
	3	全国高等学校珠算・電卓競技大会		8月
	4	全国高等学校ワープロ競技大会		8月
	5	全商プログラミング・コンテスト		9月
	6	全国高等学校生徒商業研究発表大会		11月
	7	全国商業高等学校英語スピーチコンテスト		1月
全国水産高等学校長協会	1	全国水産・海洋高等学校ダイビング技能コンテスト		8月
	2	全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会		12月
	3	全国水産・海洋高等学校カッターレース大会		7月
	4	全国水産・海洋高等学校食品技能コンテスト全国大会		7月
	5	全国水産・海洋高等学校フィッシング技能コンテスト		7月
全国高等学校家庭クラブ連盟	1	全国高等学校家庭クラブ研究発表大会	ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動	8月

国際バカロレアの活用例(平成26年度入試)

1. 玉川大学「国際バカロレアAO型入学審査」

【実施学部(募集人員)】全学部(若干名)

【出願要件】

玉川大学を第一志望(専願)とし、国際バカロレア資格を2013年4月から2014年3月31日までに取得または取得見込みの者(ただし、2014年3月31日までに18歳に達していること)。なおかつ、日本語を母語とする者またはJapaneseBをHLで履修し、成績評価が4以上の者。

【出願に必要な書類】

- ①コミュニケーションシート 受験者の意思を確認する独自の対話形式により構成
- ② EVALUATION FORM カレッジカウンセラーまたはDPコーディネーターが作成。人物的特徴の判断に使用。
- ③ 国際バカロレア資格証書のコピー ④ IB最終試験成績証明書 ⑤高等学校調査書[もしくは成績証明書と卒業(卒業見込)証明書]
- ⑥ 各種資格・検定取得の証明書の写し(指定する検定等に該当する者のみ)

【選抜方法】書類審査

2. 岡山大学「国際バカロレア入試(AO入試)」(4月入学)

【実施学部(募集人員)】理学部、医学部、工学部、環境理工学部、農学部、マッチングプログラムコース(いずれも若干名)

【出願要件】

- (1)国際バカロレア資格証書(IBフルディプロマ)を平成25年4月から平成26年3月までに授与される者で、平成26年3月31日までに18歳に達するもの
- (2)国際バカロレア資格の取得において、次の①および②に該当する者
 - ①言語Aを日本語により履修し、成績評価が4以上の者
 - ②岡山大学が指定する科目(1~2科目)を指定のレベルにより履修し、必要な成績評価を修めた者
- (3)岡山大学での勉学を強く希望し、最終の選抜に合格した場合には必ず入学することを確約できる者

【出願に必要な書類】

<IB試験を受験した者>

- ①国際バカロレア資格証書の写し ②IB最終試験6科目の成績証明書(本紙) ③自己推薦書 様式有り。
- ④評価書 学校長、進路指導担当者又は日本語の担当教員が作成。様式有り。

<IB試験受験予定者>

- ①国際バカロレア資格の取得見込み証明書(様式任意) ②IBディプロマPredicted Grades若しくはAnticipated Grades ③自己推薦書 様式有り。
- ④評価書 学校長、進路指導担当者又は日本語の担当教員が作成。様式有り。

【選抜方法】

学部等により、①書類審査 ②書類審査および面接審査 の選抜方法のどちらかを採用。

6. 達成度テスト(発展レベル)(仮称) の在り方

大学入試センター試験の概要

【目的】

大学入学志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、大学が共同して実施。

【平成26年度大学入試センター試験】

1. 試験期日

- ・本 試 験：平成26年1月18日(土)
19日(日)
- ・追(再)試験：平成26年1月25日(土)
26日(日)

※試験は1/13日以降の最初の土日に実施

3. 志願者数、利用大学数等

- ・志願者数：560, 672人
[対前年度▲12, 672人]
- ・試験場数：693試験場
[対前年度▲14試験場]
- ・利用大学数：685大学
[対前年度+2大学]
- 158短期大学
[対前年度+1短期大学]
- (国公私別)
- 国立 82大学 [100%]
- 公立 82大学 [100%]
- 私立 521大学 [90%]
- 公立 16短期大学[94%]
- 私立 142短期大学[44%]

【平成26年度試験時間割】

※出題教科科目数 6教科29科目(第1回(平成2年) 5教科18科目)

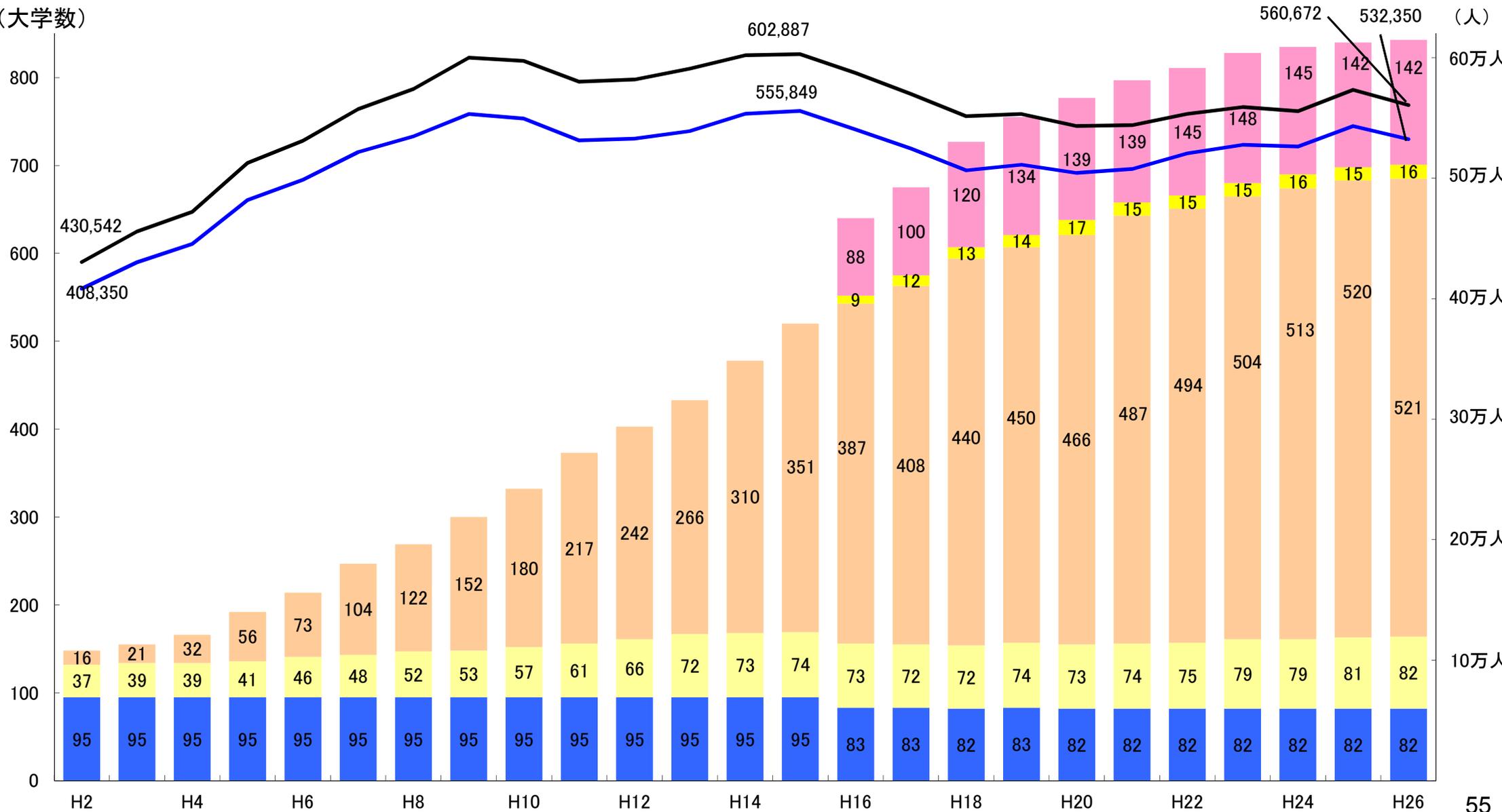
試験日	試験教科・科目	試験時間
第1日 1/18 (土)	地理歴史 ：「世界史A」「世界史B」 ：「日本史A」「日本史B」 ：「地理A」「地理B」	2科目選択 9:30～11:40 1科目選択 10:40～11:40
	公民 ：「現代社会」「倫理」 ：「政治・経済」 ：『倫理, 政治・経済』	
	国語 ：『国語』	13:00～14:20
	外国語 ：『英語』『ドイツ語』 ：『フランス語』『中国語』 ：『韓国語』	【筆記】 15:10～16:30 【リスニング】 『英語』のみ 17:10～18:10
第2日 1/19 (日)	理科 ：「理科総合A」 ：「理科総合B」 ：「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」 ：「生物Ⅰ」「地学Ⅰ」	2科目選択 9:30～11:40 1科目選択 10:40～11:40
	数学① ：「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』	13:00～14:00
	数学② ：「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』 ：「工業数理基礎」 ：『簿記・会計』 ：『情報関係基礎』	14:50～15:50

※参加大学数の割合の母数は、平成25年度入学者選抜を実施した大学数。

大学入試センター試験参加大学数及び志願者・受験者数の推移

○平成2年度の第一回試験から平成26年度試験で25回目の実施(平成18年度試験から英語リスニングを実施し、平成26年度試験で9回目の実施)。
 ○参加大学については、第一回から年々増加しており、平成26年度試験参加大学数は国公私合計843大学(うち158短期大学)。
 ○志願者数については、平成15年度試験の602,887人がピーク。平成26年度試験の志願者数は560,672人(対前年12,672人減)。

■ 国立大学 ■ 公立大学 ■ 私立大学 ■ 公立短期大学 ■ 私立短期大学 — 志願者数 — 受験者数

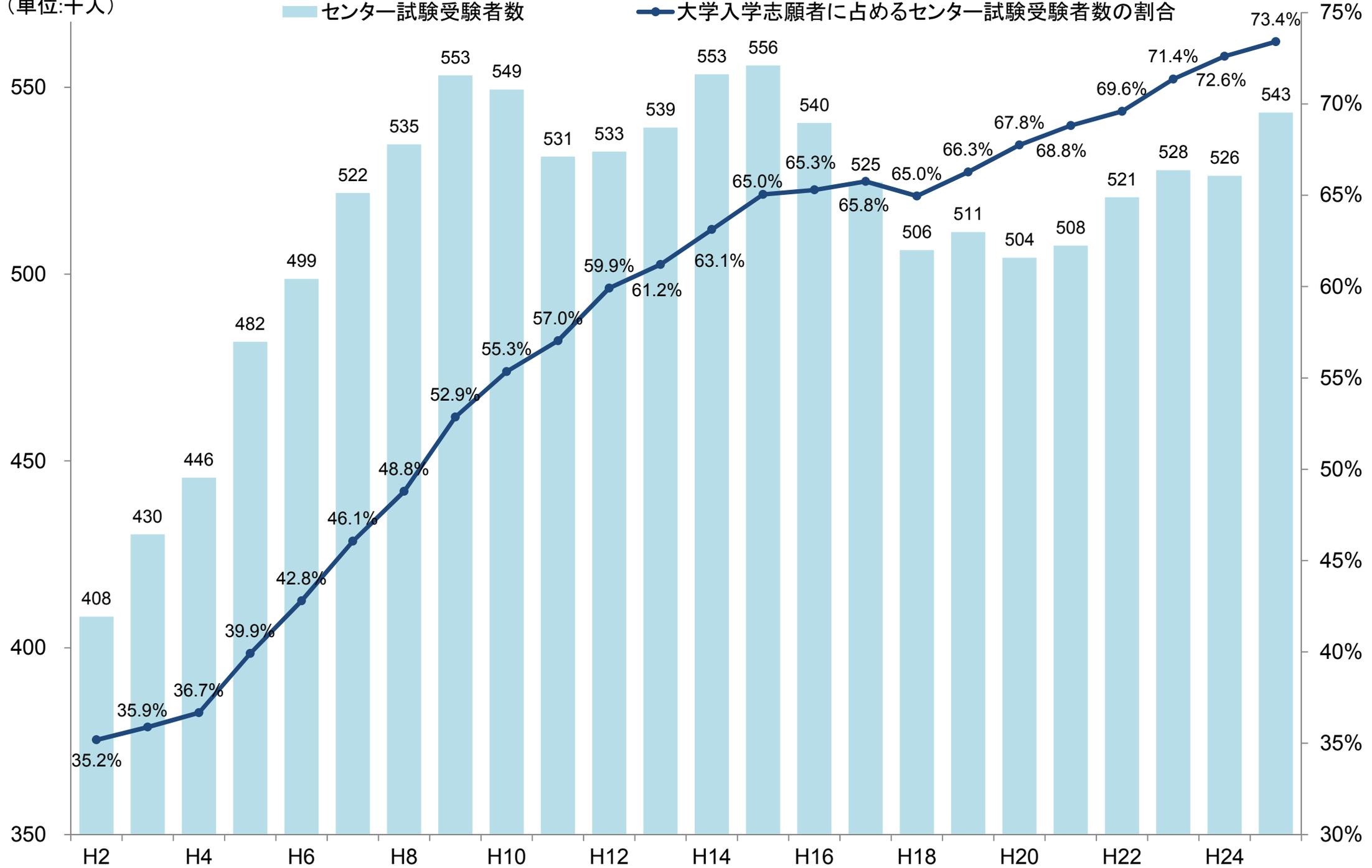


センター試験受験者数と大学入学志願者に占めるセンター試験受験者数割合

(単位:千人)

センター試験受験者数

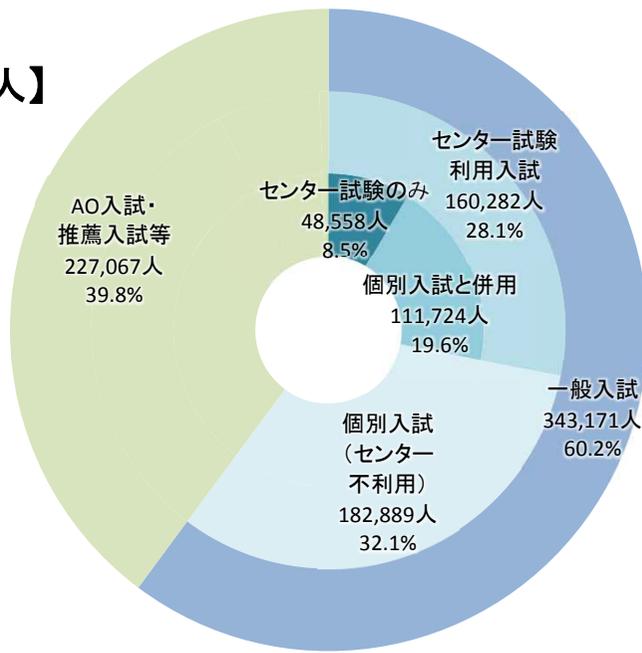
大学入学志願者に占めるセンター試験受験者数の割合



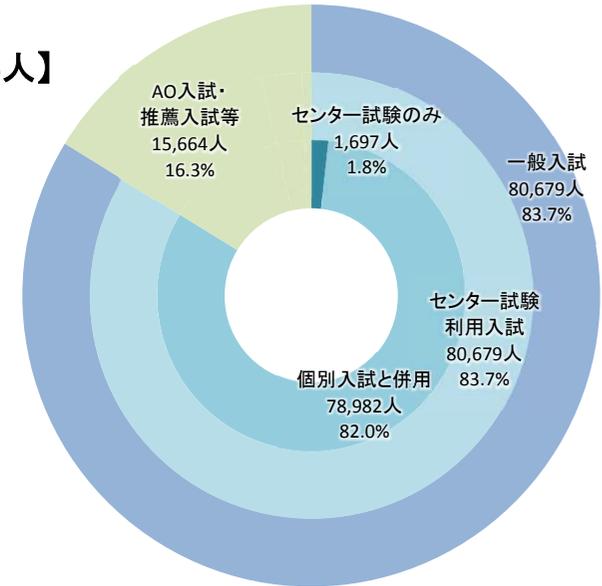
大学入試センター試験のみで合否判定を行う大学入試の状況(平成22年度入試)

国公立大学(全731大学)のうち、651大学(全大学の89.1%)がセンター試験利用入試を行い、うち、501大学(全大学の68.5%)がセンター試験のみで合否判定を行っているものの、募集人員は少ない。

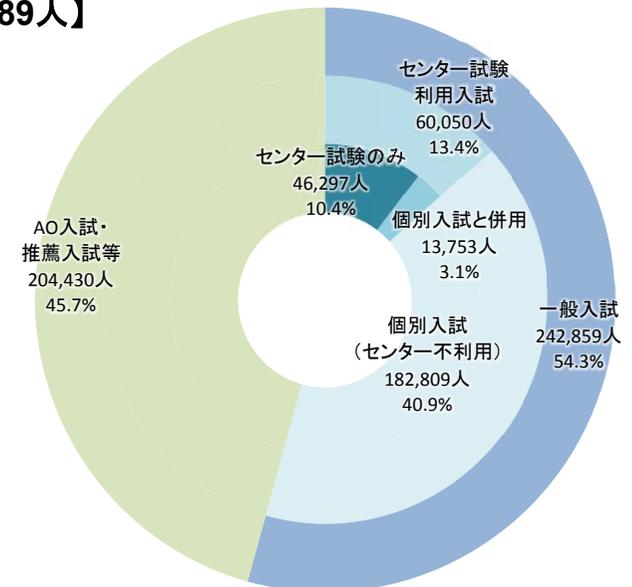
国公立計
【募集人員:570,238人】



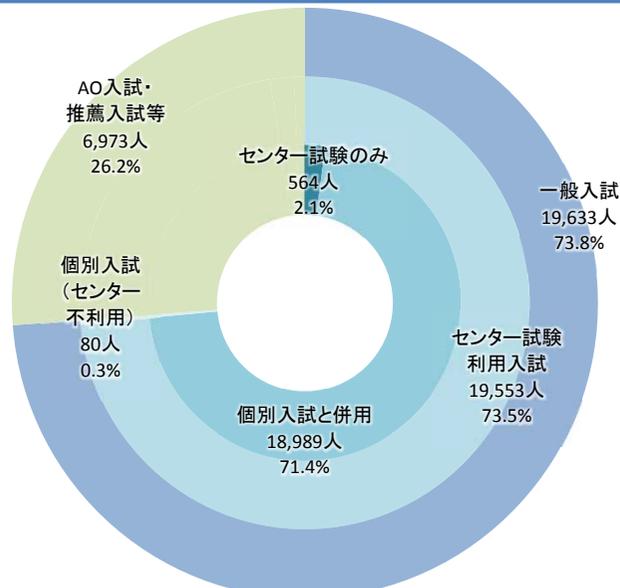
国立大学
【募集人員:96,343人】



私立大学
【募集人員:447,289人】



公立大学
【募集人員:26,606人】



注)平成22年度から公立化した静岡文化芸術大学、名桜大学は、私立大学に含む。

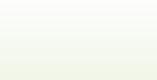
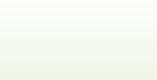
項目反応理論(IRT)に基づくテスト運用について

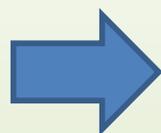
項目反応理論 (Item Response Theory) とは

- 安定した難易度の試験問題を作成するために、解答データの分析に利用される統計モデル
 - ・受験者集団の正誤パターンから各設問の難易度と識別力(精度)を統計的に推定する
- 「能力(学力)測定ツール」としての割り切り
 - ・測定ツールとしての性能保持が第一目標
 - ・個別の設問に得点を定義しない

IRTに基づくテストについて

- 設問の難易度を設定し、その正答率から達成度を判定することが可能。
- 設問の統計的特性(難易度、識別力)をIRTで調べ、IRTに基づき、正誤パターンから受験者の能力推定を行う。
- 設問内容と統計的特性を考慮しつつ問題セット(冊子)を作成

0.1			
0.2			
0.3			
0.4			
0.5			



$$1 + 3 = ?$$



$$\frac{1}{4} + \frac{2}{5} = ?$$



$$\sqrt{5} + \sqrt{20} = ?$$

課題

- 設問の難易度を特定するため、各設問の事前テストの実施が必要であり、非公開が前提
- 通常、大量の設問を事前に作成(数千~数万)するとともに、設問の暴露頻度などを考慮して、項目バンクを更新(設問のリタイア、新規設問の導入)

各国の大学入学者選抜に係る共通試験について

国名	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ		韓国	日本
共通試験	アビトゥーア試験	バカロレア試験	GCE・ALレベル	SAT	ACT	大学修学能力試験	大学入試センター試験
試験回数・時期	1回。2～4月(記述式)と3～6月(口述式)	1回。6月(9月に振替試験を実施)	1回。5～6月 ※1月試験は2013年1月の実施を最後に廃止	7回(10、11、12、1、3、5、6月)	6回(9、10、12、2、4、6月)	1回。11月	1回。1月(+追試験)
解答方式	記述式+口述式	記述式+口述式	記述式	マークシート式+記述式(エッセイ)	マークシート式+記述式(エッセイ、ただしオプション)	マークシート式+数学の一部に記述式	マークシート方式
設定科目数	州により異なる。 ※3領域(言語・文学・芸術/社会科学/数学・自然科学・技術)から5科目又は4科目を選択。うち1科目は口述試験。	取得を目指すバカロレアの種類により異なるが、リセ(高校)で学習した科目を網羅。 ※普通(3コース)及び技術(8コース)は予備試験と本試験で必修10科目程度と自由選択2科目。職業(80以上の専門領域)は必修7科目と自由選択1科目。	実施団体ごとに異なるが、全体で100科目以上 (Edexcelの2012年夏実施科目の事例:54科目) ※通常3科目程度を選択。	3領域(言語能力/ライティング/数学能力) 5分野(英語/歴史/社会学/数学/自然科学/外国語[リーディング、リスニング])20種類 ※難関大学において2科目程度必要。	4領域(英語/数学/読解/サイエンス)	7領域(韓国語、数理、社会探求、科学探求、職業探求、外国語、第2外国語/漢文)47科目	6教科29科目
実施主体	各州教育担当省	国民教育省	政府から独立した試験実施機関(Examining Board)	実施主体であるCollege Board(大学協会)がETS(教育テスト事業団)に委託	ACT Inc(アメリカ大学テスト会社)	韓国教育課程評価院	独立行政法人大学入試センター
主な①試験会場、②試験監督者、③採点者	①ギムナジウム(大学進学者が修学する中等教育機関)、②ギムナジウム教員、③ギムナジウム教員	①リセ(高校)、②リセ教員、③リセ教員	①シックスフォーム(義務教育修了後の高等教育進学課程)、②シックスフォーム、③Examining Boardが雇用した者	①ハイスクール、コミュニティ・カレッジ、②不明、③ETS	①ハイスクール、コミュニティ・カレッジ、②不明、③ACT	①高校(在学中の高校ではない)又は中学校、②高校教員又は中学校教員、③教育課程評価院	①試験参加大学、②大学教員、③大学入試センター
合格率	97.3%(2011)※	86.8%(2013年)	個別の大学が選抜に利用	個別の大学が選抜に利用	個別の大学が選抜に利用	個別の大学が選抜に利用	個別の大学が選抜に利用
入学時期	10月	9月	9月	主に9月		3月	4月

※ バーデン・ヴュルテンベルク州におけるギムナジウムと職業ギムナジウムのアビトゥーア試験受験者に占める合格者の割合。

各国の共通試験における成績表示方法について

アメリカ

①SAT

- Critical reading (言語能力)、Math (数学能力)、Writing (文章表現、エッセイを含む) の3領域。
- 素点ではなく、500点が平均点になるよう調整した上で各領域200～800点の間で10点刻みで表示(61段階)。エッセイは2～12点の11段階(Writingのサブスコア)。
- 3領域の合計2400点満点(600～2400点の181段階)。

②SAT subject test

- 難関大学を受験する場合、大学の指定に従い2科目程度を受験。
- 英語(1科目)、歴史(2)、数学(2)、科学(3)、外国語(12)の計20科目で各200～800点。
- SATと同様、各科目61段階評価。

③ACT

- English (英語)、Math (数学)、Reading (読解)、Science (科学) の4領域。エッセイはオプション。
- 素点ではなく、各科目1～36点の36段階表示。エッセイは2～12点の11段階。
- 4領域の総合点は合計ではなく、1～36点の36段階表示。SATの1500点(平均)はACTの21点に相当。

イギリス

○GCE-Aレベル

- 通常、各大学の指定する3科目程度を受験。
- 各科目、Aスター、A、B、C、D、E、不合格の7段階で表示。

フランス

○バカロレア

- 普通バカロレアの場合、必修10科目程度と自由選択科目(最大2科目)を受験。
- 各科目20点満点、平均10点以上でバカロレア合格。(自由選択科目は10点以上の場合のみ考慮)

ドイツ

○アビトゥア(バーデン・ヴュルテンベルク州の場合)

- 論述試験4科目、口述試験1科目を受験。
- 各科目15点満点で評価。
- 科目試験の点数を300点満点、ギムナジウム最後の2年間の平常点を600点満点、合計900点満点に換算し、300点以上でアビトゥア合格。

韓国

○大学修学能力試験

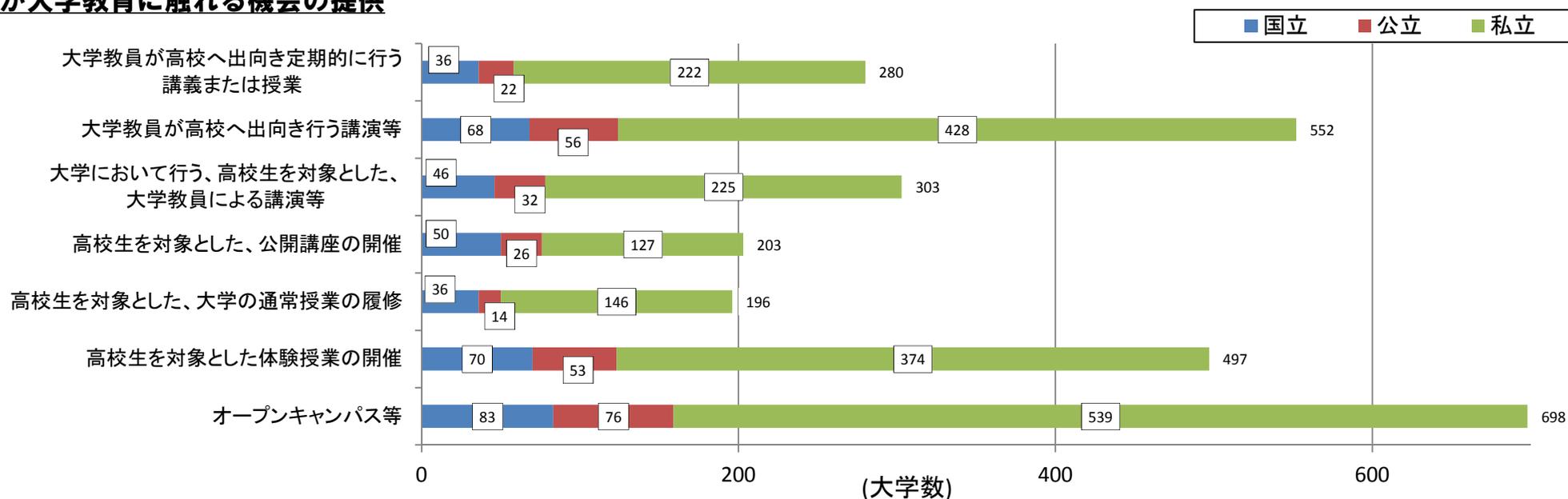
- 7領域47科目の中から各大学への出願に必要な科目を受験。
- 各科目ごとに標準化得点(偏差値)、百分位(パーセンタイル)、9等級の3種類の指標で表示。

7. 高等学校教育と大学教育の 連携強化

高等学校と大学との連携の状況

① 高校生が大学教育に触れる機会の提供(平成23年度)

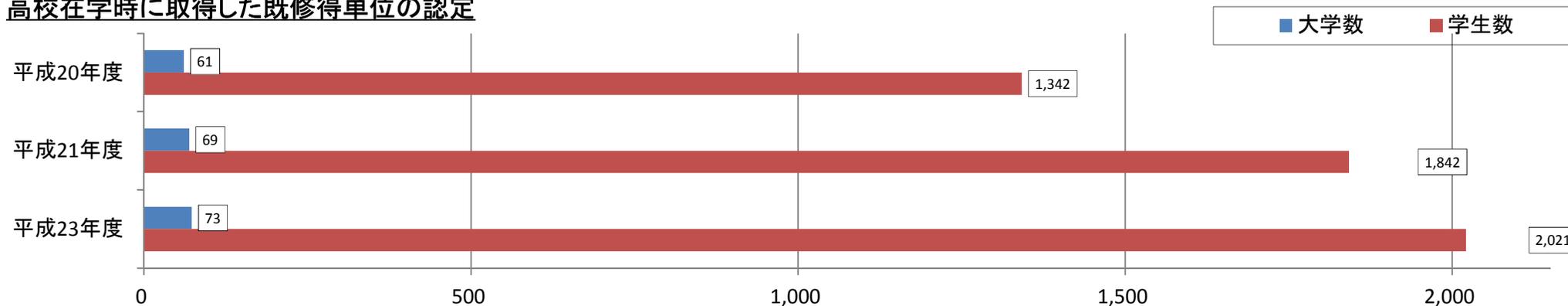
高校生が大学教育に触れる機会の提供



② 入学前の既修得単位の認定

現在、高校生が大学の科目等履修生として大学の授業科目を受講する取組も広がっており、その成果として取得した大学の単位は大学入学後に既修得単位として認定を受けることも可能である。

高校在学時に取得した既修得単位の認定



※平成22年度については、東日本大震災の影響を考慮し、調査を実施していない。

APプログラム(Advanced Placement Program)について

- ・アメリカでは、後期中等教育と高等教育の連携のためのプログラムとして「APプログラム(Advanced Placement Program)」を大学加盟の民間機関が実施。「大学入学試験委員会(College Board)」が実施するAPプログラムが代表的。
- ・ハイスクール在学中の生徒に大学レベルの学習機会を与え、所定の試験に合格することにより大学の単位として入学以前に認定することが可能。
- ・2013年には、全米の約6割のハイスクールでAPコースが開設され約216万人の生徒がAP試験を受験。約8割の大学でAPスコアを活用。

連携

ハイスクール

- APプログラム参加校数(2013年)
- 公立学校 13,580校
- 私立学校 3,887校
- 国内計 17,467校

ハイスクールの
60%以上が
参加

大学の
約80%が参加

大学入学試験委員会(カレッジボード)
のAPプログラム

約216万人がAP試験を受験
(2013年)

大学

- APスコア受付大学数(2013年)
3,665大学

APプログラムは、ハイスクールで大学レベルの教育を提供する教育プログラム

ハイスクールでの大学レベルの授業(APコース)を修了後、全国テスト(AP試験)成績に応じて、進学先の大学で単位認定を受けられる仕組み。全米の大学協賛組織である非営利団体カレッジボード(College Board)が、1955年から実施している。

【プログラムの流れ】

<ハイスクール>

- ・大学レベルの科目(APコース)を選択科目として開設、ハイスクール在籍時に受講者に対して、ハイスクール教員が指導。
- ※各ハイスクール校長に選任された教員がカレッジボードのワークショップ等で研修を受講し、授業を担当
- ※22教科37科目のプログラム実施(2007年)
- 【APコース開設科目ランキング】(2013年)

 1. 微積分 13,559校
 2. 英文学 13,497校
 3. 米国史 12,176校

～ AP試験 ～

- ・APコースの履修者は、カレッジボードの実施するAP試験を受験
- ◆AP試験
- ・科目別全国テスト 5月実施
- ・多岐選択と記述式の2形式で出題
- ・受験は任意
- ・1科目受験者が最も多く(42.5%)、次いで2科目(21.3%)、3科目(13.1%)となっている(2013年)。

<大学>

- ・AP試験の成績に応じて、個々の大学が取得単位として認定
- ※5段階評価(5が最高)でテスト成績が示され、3以上の成績をおさめた科目は多くの大学が単位認定している(認定は大学の裁量による)。
- ※受験者の約6割が3以上のスコアを獲得(2013年)
- ・APコースやIBなどの高校における大学進学予備プログラムの受講を入学者選抜において重視している大学は83.4%

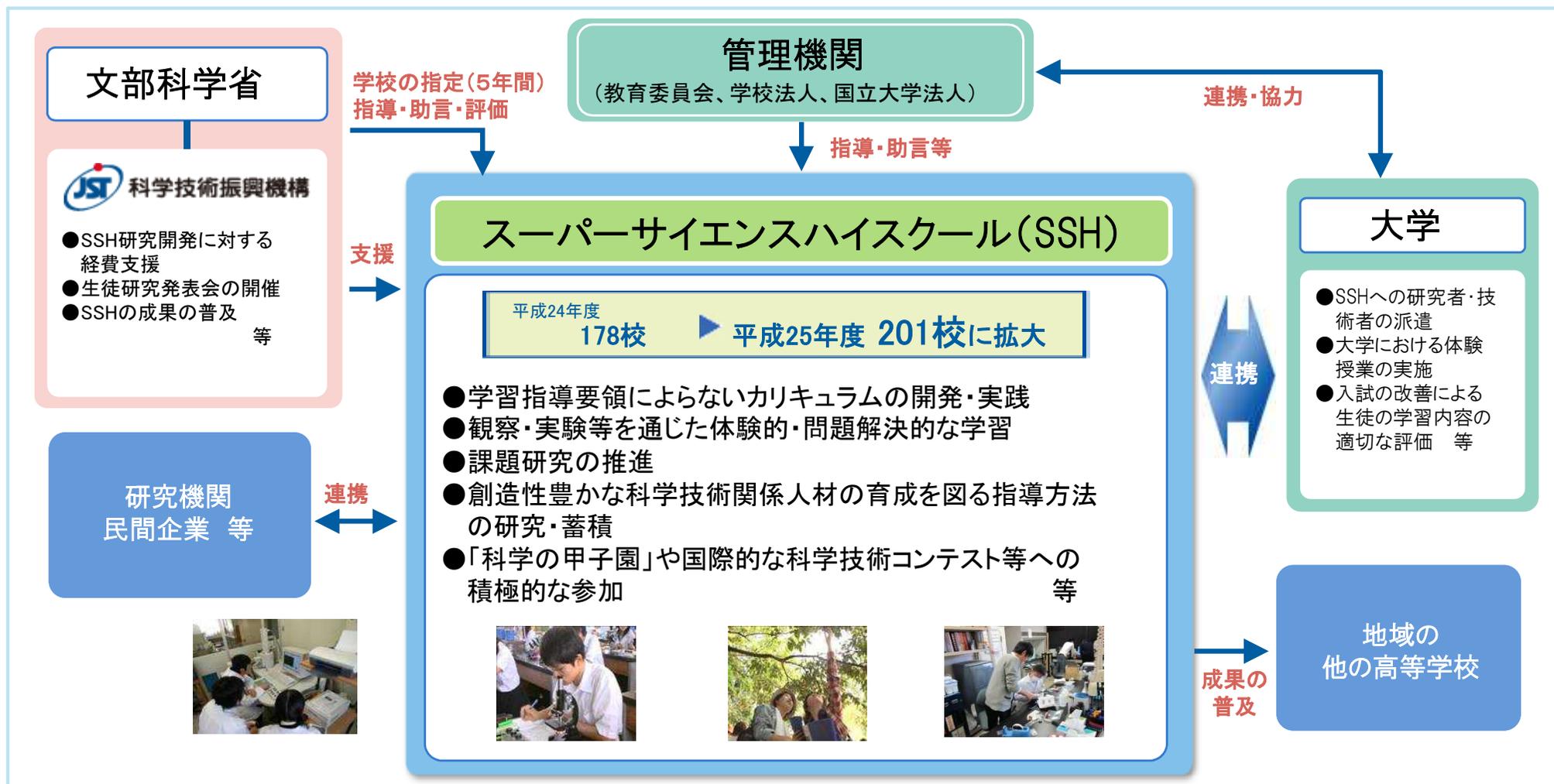
スーパーサイエンスハイスクール(SSH)について

方針

・「科学技術基本計画」(平成23年8月19日閣議決定)
 国は、次代を担う科学技術関係人材の育成を目指すスーパーサイエンスハイスクール(SSH)への支援を一層充実するとともに、その成果を広く他の学校に普及するための取組を進める。

概要

将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校等をスーパーサイエンスハイスクール(SSH)として指定して支援を実施



SSHにおける高大連携の事例について

理数系教育に関する研究開発を行う高等学校及び中高一貫教育校を指定する「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」については、「特に期待される研究開発テーマの例」の一つとして、「高大接続の開発」を挙げている。SSHにおける高大連携としては、例えば、以下のような事例がある。

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 (YSFH)

◆ 大学教員による学校設定教科「サイエンスリテラシー」等への支援

- YSFHの学校設定教科である「サイエンスリテラシーⅠ～Ⅲ」(研究者による指導のもと、自ら課題テーマを設定し探究方法を考案し探究活動を行い、積極的に発表や交流を行う)において、1年次から、週1回、95分授業において、科学技術顧問でもある大学の教員や研究所の研究者から、直接講義や実験の指導を受ける。
- ※ 1年次の「サイエンスリテラシーⅠ」・2年次の「Ⅱ」は必修。3年次の「Ⅲ」は選択科目。

◆ 横浜市立大学チャレンジプログラム

- 横浜市立大学と横浜市教育委員会は、教育連携に関する協定の理念に基づき、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校の第1期生から、横浜市立大学国際総合科学部理学系への特別入学枠(10名程度)を設定。
- 3年次の選択科目であるサイエンスリテラシーⅢの取組などを総合的に評価し、合格者を決定。
- 合格した生徒に対しては、横浜市立大学教員及びYSFH教員が、横浜市立大学講義の聴講を含む各種入学前教育を通じて継続的に指導。
- ※ この入学前教育は、横浜市立大学大学院修士課程までを5年で終わることのできる「YCU型高大院一貫科学者養成プログラム」に含まれる(YCU: Yokohama City University)。

<参考:「YCU型高大院一貫科学者養成プログラム」の流れ>

YSFH在籍時 入学前教育、個別指導の実施

横浜市立大学学部3年次終了時 一定の基準を満たした学生に対し、大学院科目を早期履修する権利を付与

大学院進学後 前期課程を1年で終了することが可能。2年目は、博士後期課程に進学するコースと、前期課程2年次をより高度な研究活動に発展させるコースに分け、学生の多様な将来像に適応させた教育を実施

◆**目的**：急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、語学力とともに、幅広い教養、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来的に政治、経済、法律、学術等の分野において国際的に活躍できるグローバル・リーダーを、高等学校段階から育成する。

◆**事業概要**：国際化を進める国内外の大学や企業、国際機関等と連携を図り、外国語（特に英語）を使う機会の飛躍的増加、先進的な人文科学・社会科学分野の教育の重点化等に取り組む高等学校等を「スーパーグローバルハイスクール」に指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を支援。

支援対象期間：平成26年度より5年間

支援対象学校：国公立高等学校及び中高一貫教育校（中等教育学校、併設型及び連携型中学校・高等学校）

支援規模：1校あたり2,900万円、平成26年度は100校を指定（予定）



スーパーグローバルハイスクール (SGH)

平成26年度 100校を指定(予定)

【主な取組】

- ・ 人文科学・社会科学分野の先進的な教育課程の開発・実践(教育課程の特例の活用を想定)
- ・ グループワーク・ディスカッション、調査研究・論文作成・プレゼンテーションの実施(英語によるものも含む)
- ・ 国際的素養を身に付けたグローバル・リーダーの育成を図る指導方法の研究・蓄積
- ・ 帰国・外国人生徒の積極的受入
- ・ 海外研修など海外の高校・大学との交流機会の充実
- ・ 外国人教員の活用(「新・お雇い外国人教師」)

【大学との連携】

- ・ 人文科学・社会科学分野の教員や、帰国・外国人教員の派遣
- ・ 入試の改善による生徒の学習内容の適切な評価
- ・ 単位認定を含む高大連携プログラムの提供



国際機関職員、社会起業家、グローバル企業の経営者、政治家、世界的な人文・社会科学の研究者、大学教員等の輩出

大学教育と高校教育の連携の例①（お茶の水女子大学） （大学レベルの教育を高校生向けに提供している例）

お茶の水女子大学と附属高校の連携により、①「教養基礎」科目の設置、②附属高校生向け公開授業、③「選択基礎」科目の設置・特別入試の実施等の「高大連携特別教育プログラム」を実施。

◆「教養基礎」科目（高校）

- ・国語、数学、英語のカリキュラムを大学・高校教員の連携のもとに研究・開発し、学校設定科目として「教養基礎」科目を設置。附属高校、大学教員の双方の研究・協力により授業を実施。
ex.) 教養基礎『国語』Ⅰ・Ⅱ、教養基礎『数学』Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 等
- ・高校1・2年生が必修、3年生は選択制。

◆附属高校生向け公開授業

- ・平成16年度よりお茶の水女子大学の一部の授業を附属高校生に向けて公開。
- ・大学生と同様に試験等を受けることにより成績が評価され、認められれば修了証書が交付される。
- ・高校の単位にはならないが、お茶の水女子大学に進学した場合は、申告により所定の手続きを経て単位が取得できる。
- ・平成25年度は、約30の授業科目を公開科目に設定。

◆「選択基礎」科目・特別入試

- ・お茶の水女子大学の特別入試受験を前提として、高校3年生が大学の学科等(学科、講座、コース等)を選び専門の基礎教育を受ける。
- ・取得した単位は、お茶の水女子大学進学の場合には、入学後、大学の単位として認定可能。
- ・附属高校生を対象とした「高大連携特別教育プログラムに基づく特別選抜」を、本プログラムの履修生に対する追跡調査のため、平成20年度入試から実施。募集人数は若干名(10名程度)。

(お茶の水女子大学、お茶の水女子大学附属高等学校ホームページより作成)

大学教育と高校教育の連携の例②（教育ネットワーク中国） （大学レベルの教育を高校生向けに提供している例）

- ・大学の授業科目の高校生への公開を通じて、高校生が大学の高度な教育・研究に触れ、高校教育と大学教育の円滑な接続に資することを目的として平成14年度から開始（大学入学後単位が認定される科目等履修生制度も平成19年度から実施）。
- ・大学の正規の科目を受講できる公開授業と高校生のためにデザインされた公開講座、教育ネットワーク中国が中山間地域の高校長協会等の協力を得て開設している中高大連携公開講座・遠隔授業などが行われている。
- ・平成24年度は公開授業に62名、公開講座に1,459名、中高大連携公開講座に1,393名、遠隔授業に130名の高校生が参加（延べ履修者数）。

◆実施主体

「教育ネットワーク中国」

中国地方の大学・短期大学・教育団体などで構成する連携組織。
単位互換・生涯学習・高大連携などの事業を展開。

◆対象高校

広島県内の公立・私立高等学校および広島大学附属高等学校に在籍する生徒。山口県岩国地区の県立岩国高等学校、県立高森高等学校、高水高等学校に在籍する生徒。

◆提供大学

中国地区を中心とした、約22の大学、短大等。

科目等履修生制度

- ・高等教育を受けるのに十分な能力と意欲を持つ高校生が科目を履修するだけでなく、単位の取得ができるようにした制度（一部の大学において実施）。
- ・進学したい学部や大学の講義の受講・単位認定を通じて将来の進路選択を今まで以上に明確化することが可能。
- ・大学入学後、大学の判断により、単位の認定が行われる。

（「教育ネットワーク中国」ホームページより作成）

<高校生のためにデザインされた公開講座>

- ・大学の正規の科目の他に高校生のためにデザインされた講座を設置。

<「公開講座」の例> (2012年一次募集科目)

大学・短期大学名	学部・学科	科目名
比治山大学	現代文化学部 社会臨床心理学科	心理学を体験する
広島工業大学	工学部・都市デザイン工学科	ICT技術で江戸時代にタイムスリップ
広島国際学院大学	工学部総合工学科	環境の科学と技術の体験
	工学部総合工学科	コンピュータを利用するものづくり (CAD/CAM)
	工学部総合工学科	生きた生物で美味しく健康な食生活 ～ヨーグルトはすっぱい乳酸菌、パンは風味豊かな酵母、納豆は？～
広島大学	医学部	先端医療は今ー広島から世界へ2012
広島文化学園大学	看護学部・看護学科	高校生のための看護学入門
広島文化学園短期大学	保育学科	保育のためのピアノレッスン 保育系をめざす人のためのピアノレッスン
広島都市学園大学	健康科学部 看護学科	基礎看護技術学ーフィジカルアセスメントー

<「学習記録」の作成>

・大学の公開授業を受けるにあたって、自己評価など個人の学習記録を記入し、大学の講義を学んだ記録として活用。

・一部の授業において、実施講義終了後、担当教員がコメントを付した上で返却。生徒の学習意欲の向上に役立てる。

<「学習記録」の例>

教育ネットワーク中国 高大連携学習記録 (No.)		作成日	年	月	日
氏名		担当教員から			
高校名		大学名			
高校入学年		担当者			
		記入期日	年	月	日
<公開授業の記録>		担当者の評価 (評価できる点、今後努力して欲しい点などを書いてください)			
	受講者から				
大学名					
履修した科目名					
担当者					
受講した年	年	前期	後期	集中	
受講者の自己評価 (大学の講義を受けて何を学ぶことができたのか、今後努力していきたいことなどを書いてください)		高校教員から一言			

入学準備教育に関する取り組み事例(帝京大学)

- ・大学で学ぶ意義を理解し、主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目的として、帝京大学の一部の学部、短期大学のAO入試及び推薦入試の合格者を対象に平成26年度入学予定者から入学準備教育を実施。
- ・対象者はインターネットを利用して全講義12回の中から必須の2授業とその他3つの授業(合計5つ以上)の授業映像を視聴し、ポートフォリオを提出。その後、希望者はさらに理解を深めるために「フリップトクラスルーム(反転授業)」に参加可能。

1. オンライン映像授業による入学準備教育

- ・一部の学部、短期大学のAO入試及び推薦入試による入学予定者を対象に、オンライン映像授業による入学準備教育を実施。講義映像には、正課科目として開講している「帝京学」の授業を使用。
＜「帝京学」＞
→各学部・学科から選ばれた教員が、それぞれの専門分野を通して帝京大学で学ぶことの意義を説明。「大学での学びとは何か」「どのように学問と向き合っていけばよいか」といったテーマについて、毎回取り上げる。
- ・対象者は、全講義12回の中から必須の2授業とその他3つの授業(合計5つ以上)の授業映像を視聴し、大学にポートフォリオ(※)を提出。

(※)ポートフォリオ
受講者が学習過程並びに学習成果等を記録したもの。

◆オンラインで提供される「帝京学」講義一覧

所属学科	授業内容
学長	帝京大学について学ぶ【必須】
経済学科	経済学科で何が学べるのか？
経営学科	経営学の学びとは、失敗を学ぶこと
法学部	クラブ襲撃事件と刑法【必須】
日本文化学科	日本の師友たちと知りたい、守りたい
史学科	八王子キャンパス周辺の歴史と現在
社会学科	社会学って何？若者ってどんな人？
心理学科	認知心理学の認知症への接近
外国語学部	英語史の旅
初等教育学科	読書力が未来を拓く
スポーツ医療学科	健康と体力について
総合教育センター	真の「国際性」に向けて

2. フリップトクラスルーム(反転授業)による入学準備教育

- ・AO入試による入学予定者のうち希望者を対象に、オンライン映像授業による学習内容をさらに深めることを目的とした「フリップトクラスルーム(反転授業)」(※)を実施。

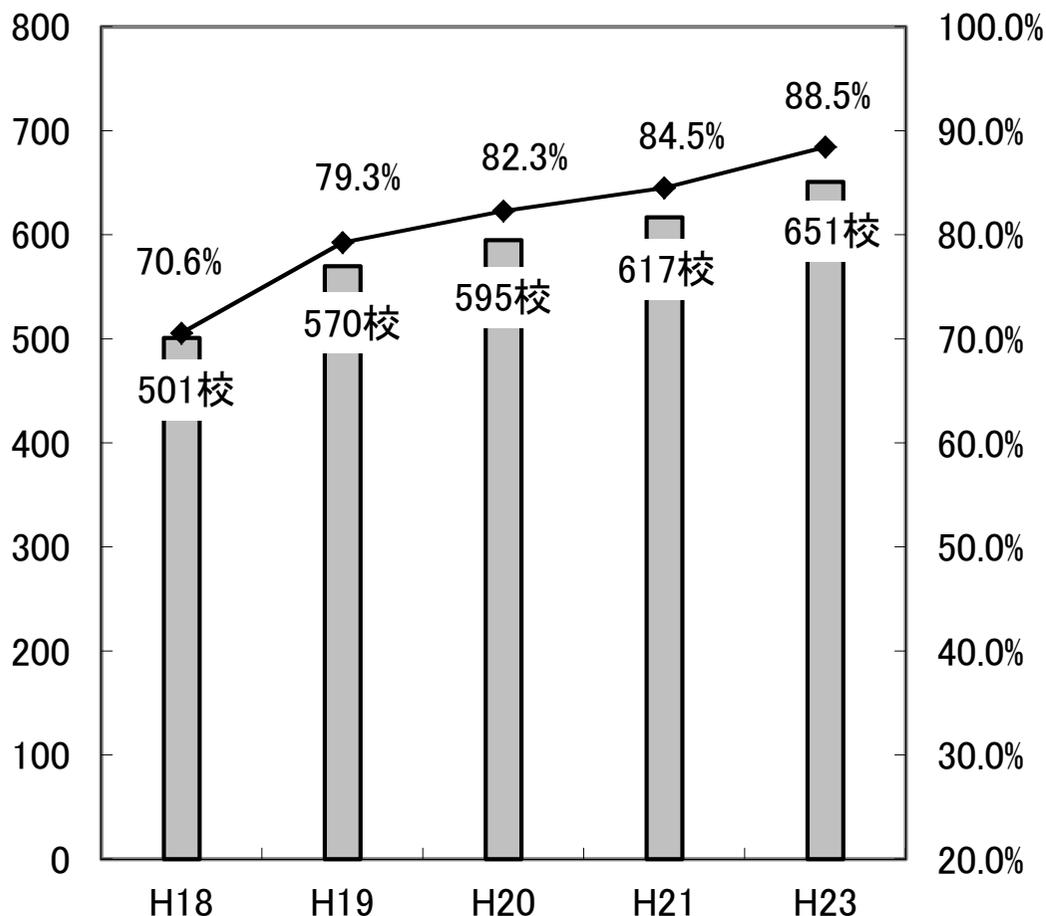
(※)フリップトクラスルーム(反転授業)
予め授業を映像で受講し、その後に対面式の授業でディスカッションなどを行うもの。米国で2000年代から急速に広がった教育手法。

初年次教育の実施状況

大学進学者が多様化する中、多くの大学では、大学教育への円滑な移行を図るための初年次教育実施している。

[参考] 初年次教育: 高校から大学への円滑な移行を図るため、大学新生を対象に作成される総合的教育プログラム。新生に大学教育の最初において提供されるものであり、高等学校で学ぶべきことを補完する補習教育とは異なる。

○初年次教育の実施状況(大学学部の状況)



※平成22年度については、東日本大震災の影響を考慮し、調査を実施していない。

○初年次教育の具体的内容(例)

- レポートや論文の書き方などの文章作法
- プレゼンテーション、ディスカッションなどの口頭発表技法
- コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術
- フィールドワークや調査・実験の方法
- 情報収集や資料整理の方法
- 論理的思考や問題発見・解決能力の向上
- 学問や大学教育全般に対する動機付け
- 将来の職業生活や進路選択に関する動機付け
- 社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観
- メンタルヘルスなど、精神・身体的健康の保持
- 学生生活における時間管理や学修習慣

<取組の概要>

- ・学生たちが高校から大学への環境変化にスムーズに適応し、自発的・能動的に学ぶ意識を育てることを主眼とし、さらにその方法論を4年間の大学教育(学士課程教育)全体に継続的・発展的に展開しようとするを目的としたもの。
- ・取組の実施にあたっては「初年次教育研究開発センター」を中心に独自の教材や教育手法を開発し、その情報とノウハウの学内共有化を推進。
- ・教育手法の改善として、従来の一方向的な講義形式にとられない、学生参加によるグループワークの実践などを主体とした「アクティブ・ラーニング(Active Learning)」の手法を全学的に導入し、その結果、学生自身の積極性や参加意識が向上するとともに、「学び」を核とした大学生活への適応力が向上。

<具体的な取組>

以下の1～4の取組を実施。

1. 入学前教育

初年次教育プログラムは、入学予定者を対象とした「ウォーミングアップ学習」とよばれる入学前教育から開始される。これは、大学生活に対する不安を軽減するとともに、大学で必要な学習技術を学ぶことを主な目的としている。(毎年行う実施後のアンケートでも「大学生活への不安がなくなった」との評価を得ている。)



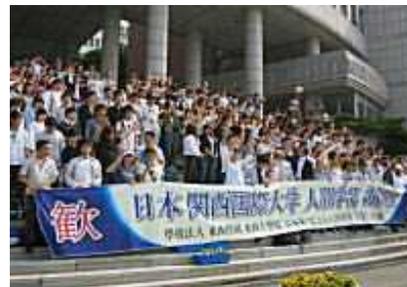
2. 初年次教育カリキュラムの充実

入学直後の春学期に、初年次教育プログラムの核として、「キャリアプランニング」「学習技術」等を開講し、4年間の学士課程の基礎となる知識やスキルを修得。(本取組の中で作成されたテキストは他大学でも使用されている。)



3. 海外研修プログラム

「キャリアプランニング」の一環として、新入生対象の海外研修プログラムを行い、課題解決型のフィールドスタディを通じ、「自律性」と「国際性」の促進を目指す。人間心理学科・教育福祉学科は韓国、英語コミュニケーション学科はオーストラリアでの研修を実施。毎年、1年生のほぼ全員が参加。



4. ポートフォリオの活用

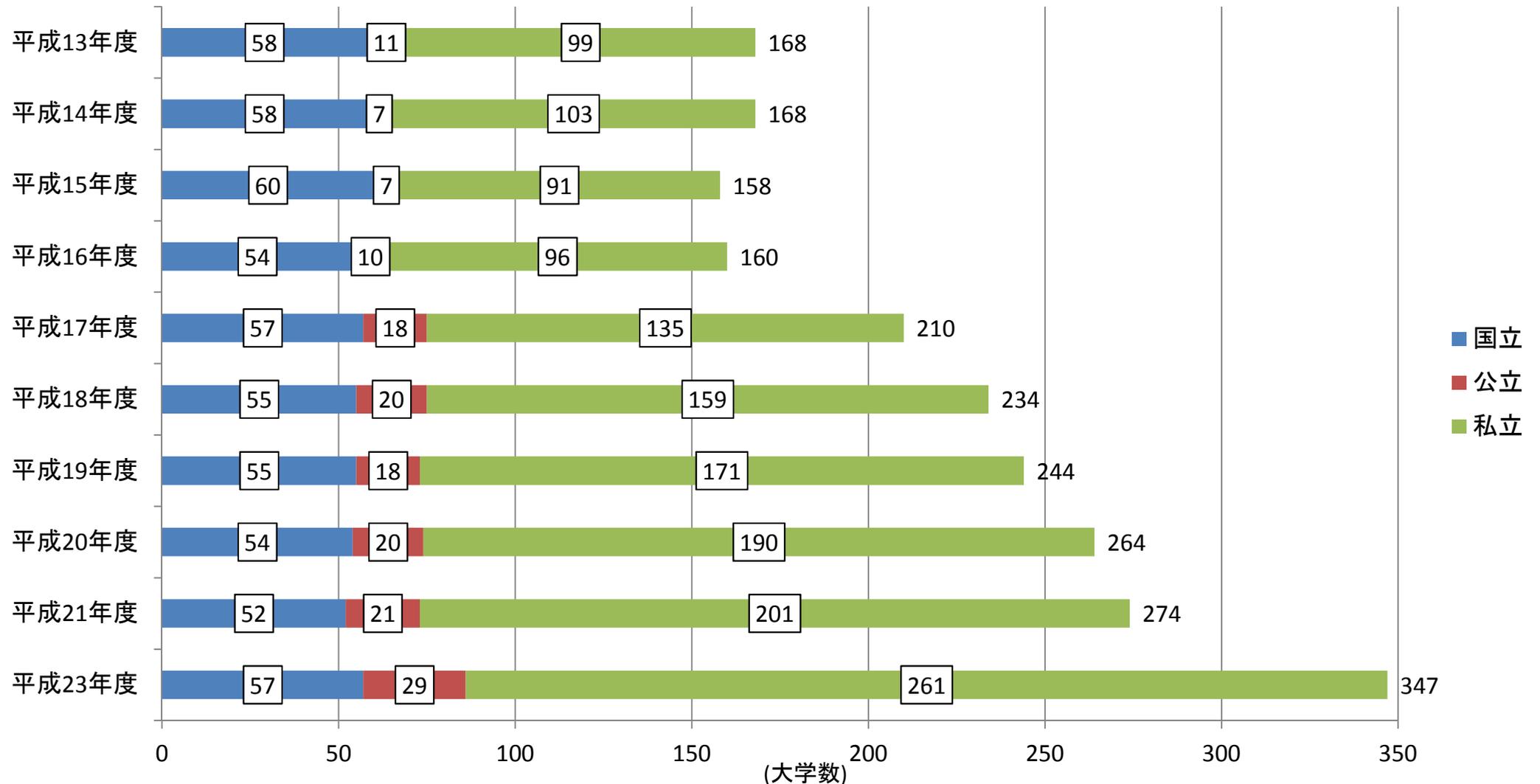
全学生の一人ひとりの自己分析結果やレポートなど、自分自身の学習成果を統合的にファイルした「個人ポートフォリオ」を作成し、4年間の学生生活を通して活用。これによって、常に自分の目標管理と学習到達度の確認が可能。



補習授業の実施状況

補習授業を実施している大学数は、平成23年度で347校・全体の約46%であり、平成13年度の2.1倍に増加。

[参考] 補習授業：卒業要件としての履修単位の範囲外の、本来高等学校レベルで実施すべき教育内容を扱う授業等を行うこと。



※平成22年度については、東日本大震災の影響を考慮し、調査を実施していない。

(出典) 文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」